

第5章 上位・関連計画の把握

・本計画の上位計画及び関連計画は以下のとおりである。

■第5次長久手市総合計画（平成21年3月策定、目標年次：平成30年度）

- ・基本方針では、長久手古戦場駅周辺を新たな中心拠点として整備し、沿線を中心とした集客施設が連携することにより、新たな交流や魅力を引き出す「にぎわい交流するまち」を目指す。
- ・リノモテラス構想は、「人が輝き 緑があふれる 交流都市 長久手」の実現に向けた拠点プロジェクトであり、長久手古戦場駅前に、まちの新たな顔として「リノモテラス」を整備し、住民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間を創出する。

□リノモテラス整備イメージ

(1) リノモテラスの整備

- ・広々とした空を望む「広場」 イベントスペース、オープンカフェなどに活用
- ・住民の暮らしを支え、訪れる人をもてなす「複合商業施設」 店舗、健康・医療相談、住民サービスコーナー、観光・イベントインフォメーション、大学連携拠点などさまざまな施設を充実

(2) バスターミナルの整備

- ・リノモとNーバスなど公共交通の接続を重視し、バスターミナルを整備

(3) 隣接する古戦場公園との連携

- ・古戦場公園の再整備状況を踏まえてリノモテラスとの連携を検討

■第2次長久手市土地利用計画（平成21年3月策定、目標年次：平成30年度）

- ・市中央部は、本市の新たなシンボル・コアとして商業・レクリエーション、住宅等複合機能の立地を図る。



■長久手市都市計画マスタープラン（平成22年3月策定、目標年次：平成30年度）

●まちづくりの基本目標

- ・自治と協働
- ・リニモを軸とした集約型のまち
- ・多様な交流を育むまち
- ・自然豊かで環境にやさしいまち
- ・安全で高質、文化的な暮らしのあるまち

●みどり（公園・緑地等）の方針

- ・古戦場公園については、さらなる施設の充実を図るとともに、「シンボル・コア」との連絡性を高め、本市の歴史と触れ合う機会を提供する。

●楽しみながら歩けるまちの形成

- ・本地域の特色である岩作丘陵、大草丘陵については、地形を活かし、トヨタ博物館、御嶽山、色金山歴史公園、立石池など、丘陵地に沿って分布する公共施設やレクリエーション資源を結ぶ散策路を検討する。

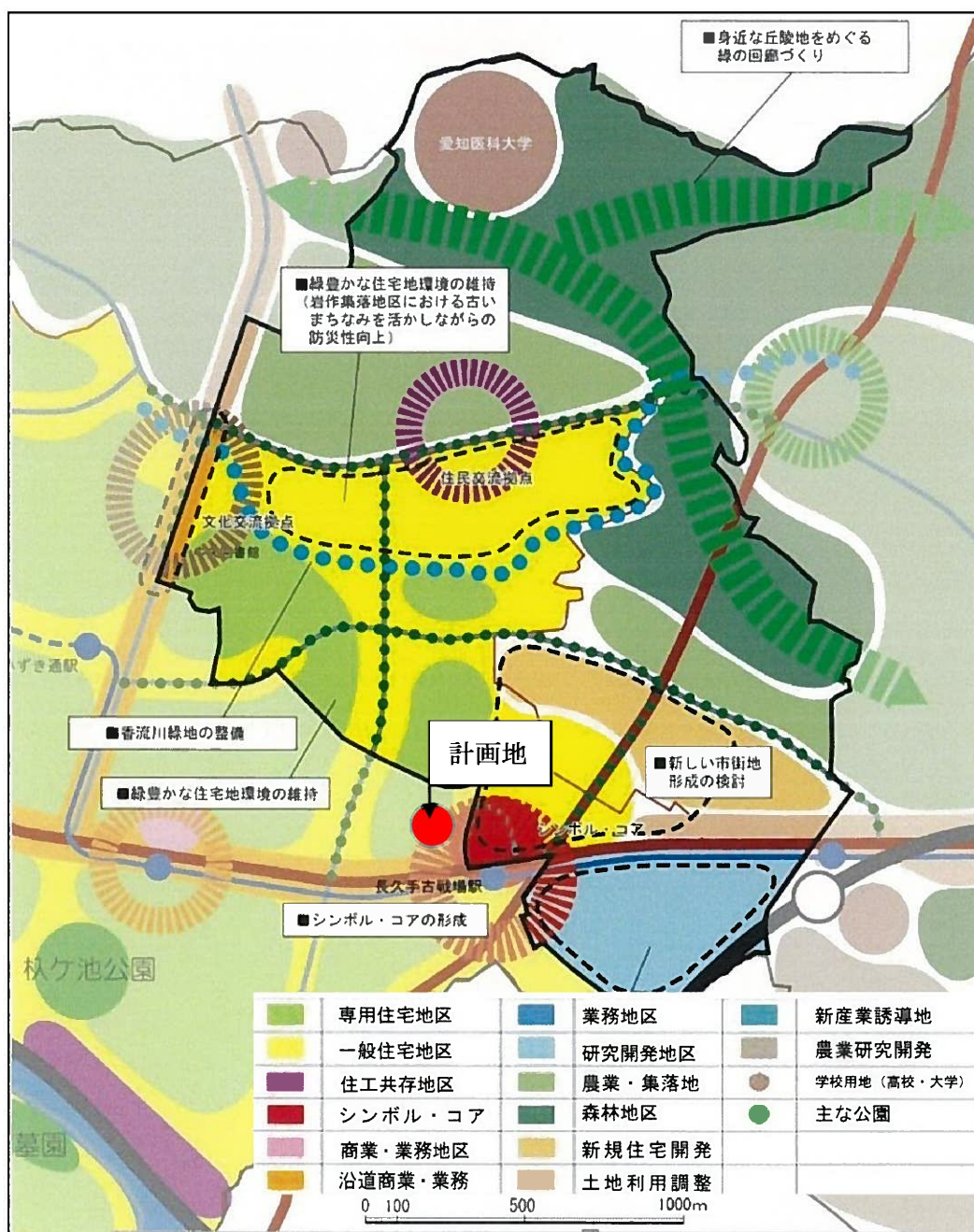


図 2 中部地区のまちづくり方針図

■緑の基本計画（平成 22 年 3 月策定、目標年次：平成 30 年度）

●緑の将来像：「都市と自然が交わり、緑が輝くまち 長久手」

- ・まち歩き、さと歩きを楽しみながら五感で緑を感じる
- ・都市の安全と美しさを支える緑をまもり、つくる
- ・緑を共有し、みがくことで、まちへの誇りと愛着を育てる

●緑地の配置及び都市緑化に関する方針

- ・長久手古戦場駅周辺におけるシンボル・コアの形成にあたっては、古戦場公園の歴史要素も含め、本市の新たな「顔」としての景観形成を図る。



図 3 緑地の配置方針図（環境保全系統）

■長久手市中央地区まちづくり基本構想（平成 25 年 3 月策定）

- ・長久手中央地区の位置づけを確認したうえ、古戦場公園周辺の地域特性や、目指すべき将来市街地像を見据えて策定された基本構想

●基本コンセプトの検討条件

- ：古戦場としての歴史性を継承すること（後略）

●基本コンセプト設定の考え方

- ：多様な世代、多様な活動の交流により街の賑わいを創出する
- ：古戦場としての歴史性を継承するまちづくりを進める（後略）

●基本コンセプト「緑に溢れ、多様な交流による賑やかなまち」

●まちづくりのテーマ「木と石と雑木林が織りなす自然と歴史を感じるまちづくり」

■リニモ沿線地域づくり構想（平成21年3月策定、計画目標年次：平成27年度）

：愛知県と沿線市（瀬戸市・豊田市・日進市・長久手市）が共同で策定したリニモを積極的に活用した、中長期的地域づくり構想

●主要施策とその主な取組エリア

主 要 施 策	主要施策の主な取組エリア						
	古戦場	芸大通	公園西	記念公園	陶磁資料	八草	海上の森
1. ④駅を中心に概ね1km圏内の市街地整備の推進 2. ④森林・農地の適正な維持管理(あいち森と緑づくり税活用による里山林整備等)	●	●	●	●	●	●	●
3. ④エコ技術の導入（太陽光発電、屋上・壁面の緑化等） 4. ④「エコモビリティライフ」の推進（通勤転換、パーク&ライド等）	●	●	●	●	●	●	●
5. ④家庭菜園を備えるなどゆとりある住宅の整備促進 6. ④水と緑のネットワーク形成の推進(ウォーキングロード等の充実) 7. ④田園バレー事業の推進（地産地消の推進等） 8. ④環境学習の促進	●	●	●	●	●	●	●
9. ④愛・地球博記念公園の集客力の充実強化 10. ④瀬戸万博記念公園（愛・パーク）の活用 11. ④沿線施設の組織化及び沿線の一体となったイベントの実施 12. ④企業、大学等が参画した交流イベント等の実施(合同学園祭等)	●	●	●	●	●	●	●
13. ④愛・地球博記念公園における地球市民交流センターの整備 14. ④一市町村一國フレンドシップ、万博ボランティアの継承・充実	●	●	●	●	●	●	●
15. ④エコマナー活動・ゼロエミッションの取組 4. ④「エコモビリティライフ」の推進（通勤転換、パーク&ライド等）(再掲) 16. ④IT技術を活用した交通情報等の共有（WEBによるリニモビ等）	●	●	●	●	●	●	●
17. ④「知の拠点」の整備（先導的中核施設、中部シンクロトン光利用施設（仮称）等） 18. ④国機関等の研究施設の早期誘致				●	●		
19. ④民間企業の研究開発施設など産業集積用地の整備						●	
20. ④駅周辺での芸術活動の場の整備の推進 21. ④愛知県農業総合試験場の機能強化（研究環境の整備、研究交流の充実等） 22. ④愛知県立芸術大学の充実 23. ④沿線大学のコンソーシアム形成等による連携強化	●	●	●	●	●	●	●
24. ④青少年などへの科学技術の啓発活動の推進（サイエンスカフェ等） 25. ④大学による地域貢献活動の充実(大学による市民講座、生涯学習の提供等)	●	●	●	●	●	●	●
26. ④長久手古戦場駅、公園西駅、八草駅周辺への集約的な都市的土地利用の誘導 27. ④駅周辺への利便施設、コミュニティ・公共公益施設の配置	●	●	●	●	●	●	●
28. ④パーク&ライド駐車場の整備・促進 29. ④背後圏をつなぐアクセス道路の整備 30. ④テーマ性のあるプロムナードの形成(沿線施設へのプロムナード整備) 31. ④フィーダー交通の充実（周辺住宅団地との連携強化等） 32. ④せと・まるっとミュージアム構想を踏まえた連携の推進（瀬戸蔵と愛知県陶磁資料館の回遊等）	●	●	●	●	●	●	●
33. ④シーズンイベントの開催(芸術、電飾等を利用した地域の演出) 34. ④地域づくりのプラットフォーム構築等によるエリアマネジメント	●	●	●	●	●	●	●
35. ④世代混在住宅の誘導 36. ④ホームページ、ミニコミ誌など沿線情報の一体的提供	●	●	●	●	●	●	●

●駅周辺の将来像

- ：駅前には商業・公益サービス・レクリエーション施設等が集積し、沿線の大学生等が集う。
- ：広域エリアの拠点として、長久手市はじめ日進市など近隣市町からも絶え間なく人々が行き交う。
- ：その周りには様々な世代が住む住宅地が広がり、コミュニティが形成される。

■第2次長久手市観光交流基本計画（平成27年3月策定、計画期間：平成27～28年度）

1. 視点

- ①観光ニーズの変化 文化に触れ、体験し、遊ぶ「体験型観光」へ変化
- ②地域ブランドづくりによる観光振興
- ③観光の眼で見て初めて気付く地域資源がある
- ④地域経済が稼ぐためのポイント～地域産品、宿泊客の獲得、リピーターの確保～

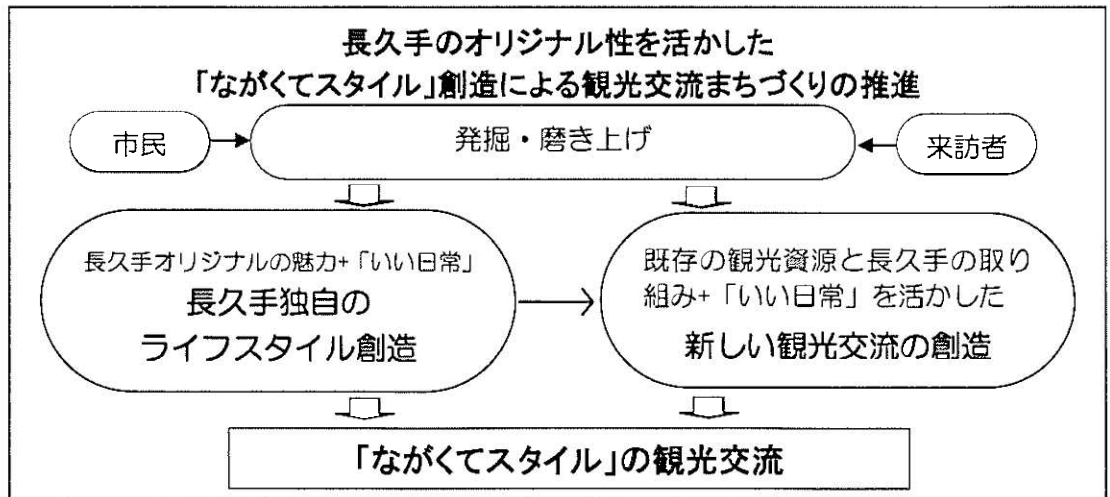
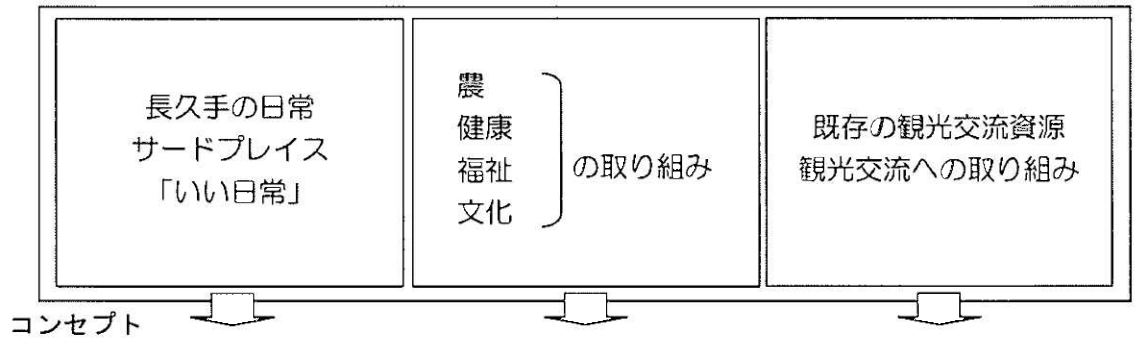
2. 考え方

：「観光」を物見遊山的なものとするのではなく、「観光まちづくり」や「観光交流」という視点で捉え、長久手の人や文化に触れ、体験し、遊ぶ「体験型観光」を考える。

3. 目標像 : あったかいふれあいのある、居心地のいいまち 長久手
「住んでみて！ 訪れてみて！ いいまち ながくて」

4. 推進理念 : 魅力を生かしパートナーシップで進める「長久手観光交流まちづくり」

前提



方向

- <空間づくり>
市内の体験のための移動手段として、環境に配慮した公共交通と自転車利用の促進
交流と情報発信と移動のためのターミナルとなるリノモテラス
- <システムづくり>
体験メニューとルート化・ネットワーク化、情報発信
移動のためのリノモとレンタサイクルシステム
- <しくみづくり>
観光交流推進会議(観光協会)と市民参画・協働、おもてなし

■第3次長久手市環境基本計画(改訂版)〈平成28年3月、目標年次：平成32年度〉

- めざす環境像：人と地域がつながり自然と環境にこだわるまち
- 歴史景観の保全
 - ・戦国時代の歴史をとどめる古戦場公園や色金山歴史公園、昔ながらの農村のたたずまいを残す農家住宅や集落地、神社・仏閣など、ふるさと長久手を感じさせる歴史景観を守り育てる活動を促進します。

■リリモテラス公益施設(仮称)整備基本計画(平成28年4月策定)

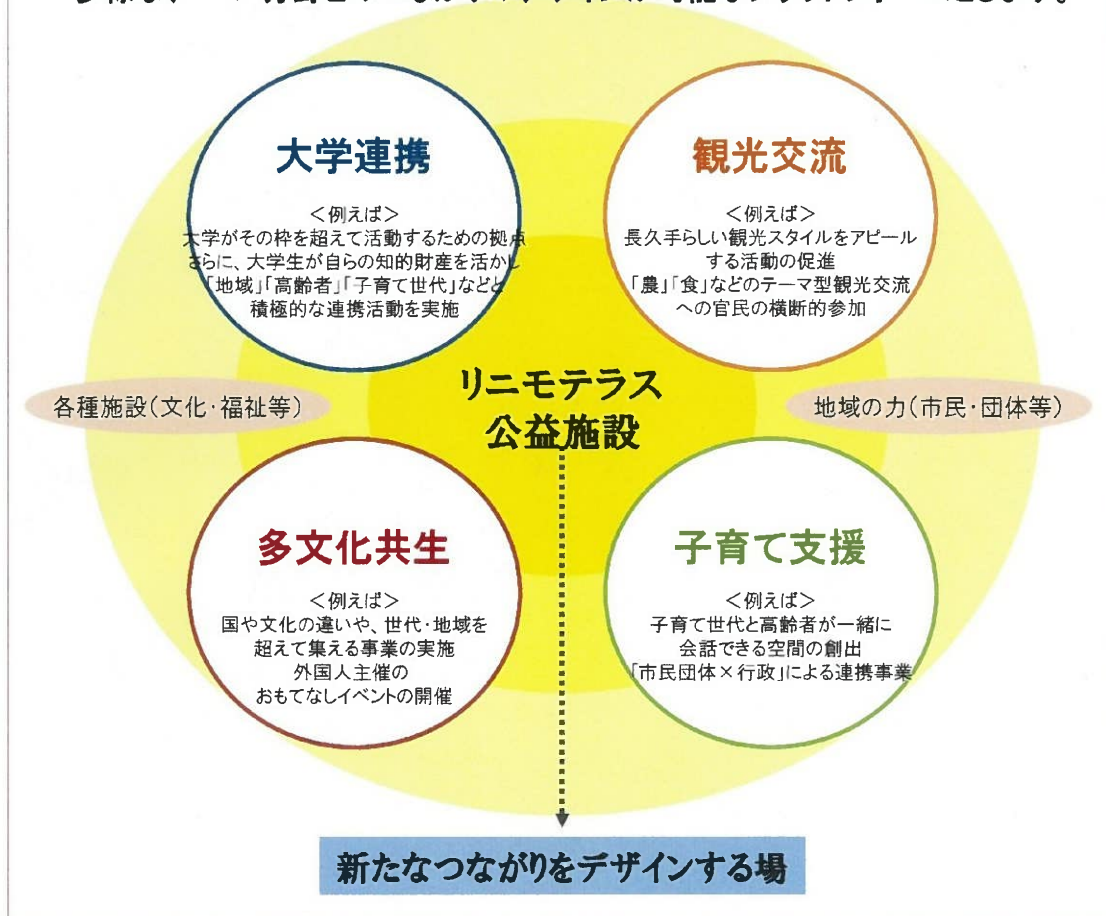
- ・出会い、きっかけから生まれる新たなつながりによって、発信力のある多種多様な取り組みが生まれ、まちの新たな魅力を形成するにぎわいの場

施設コンセプト

新たなつながりをデザインする場

長久手らしさや若者たちの関心事などから抽出できるキーワードを核に、「学生」「社会人」「主婦(夫)」「高齢者」「行政」などがそれぞれの枠に収まることなく、世代を超えて新たなつながりを生み出す場づくりを目指します

リリモテラス公益施設は、4つのテーマを軸にしながらも、その枠にとらわれず多様なテーマ・分野とのつながりのデザインが可能なプラットフォームとします。



■古戦場公園再整備基本構想（平成27年3月策定）

■古戦場公園再整備の基本コンセプト

《秀吉と家康が戦い、歴史が動いた。ここ長久手で。》
 ~古戦場をめぐり、体感する。訪れてみたくなくなるフィールドミュージアム~

長久手の地帯まるごと歴史博物館の形成を見据えた、古戦場公園の施設再整備構想

長久手の「郷土の記憶」

■基盤となる位置づけ

「歴史の大舞台」

羽柴（のちの豊臣）秀吉と徳川家康が直接戦った「小牧・長久手の戦い」は、我が国の近世史の大きな出来事であり、長久手古戦場は、1584年、この戦いの主戦場となった「武士の歴史」の舞台である。

長久手の原風景「里山回廊」と農民の生活文化

- ・長久手古戦場周辺は、長湫、岩作、上郷、3つの地区の接点であり、香流川に代表される水辺空間とそれに沿った農地、里山、集落が、上記の「武士の歴史」の舞台となる原風景として残っていた。
- ・武士の歴史の影でそれを支えた「農民の生活文化」が、「誓固祭り」「棒の手」などの祭事等として継承されている。

■今後付け加わられていく位置づけ（新たな都市拠点機能の配置）

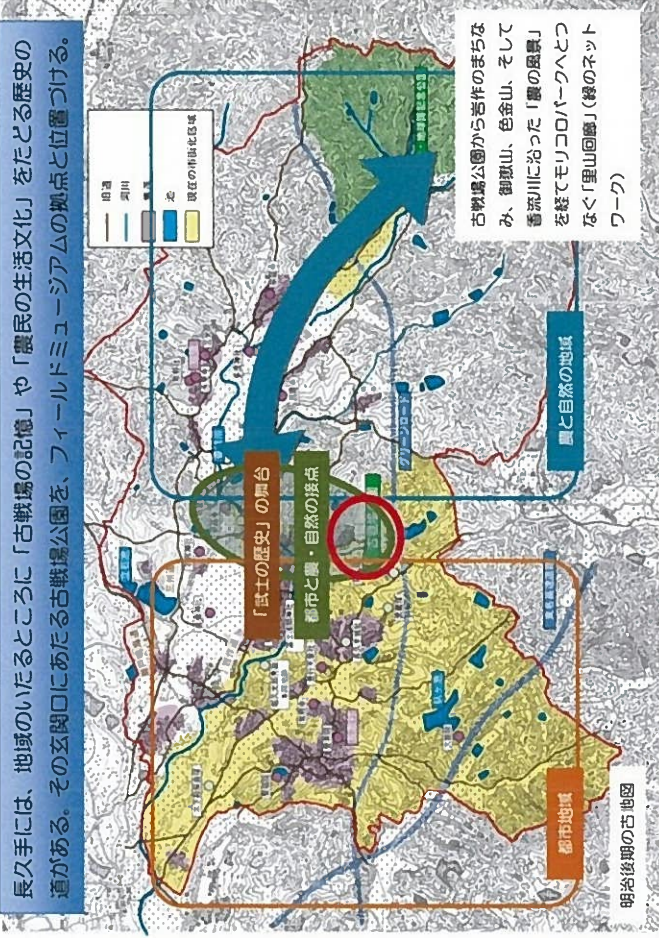
「リニモテラス」(十大大規模商業施設)

観光に関する情報発信の場、大学をはじめとする連携の場、多くの人が集まるイベントの場

■古戦場公園再整備の基本コンセプト

《シンボル・コアに「顔」をつくる》

~「古戦場の記憶」という、長久手ならではのアイデンティティを活かす~
 ・「古戦場の歴史」「新たな都市文化の出会い」をテーマに。
 ・古戦場公園、リニモテラス、大規模商業施設等が連携して多くの市民が集まり活動し、地域情報を外部へ発信する地区を形成する。



(フィールドミュージアムとは?)

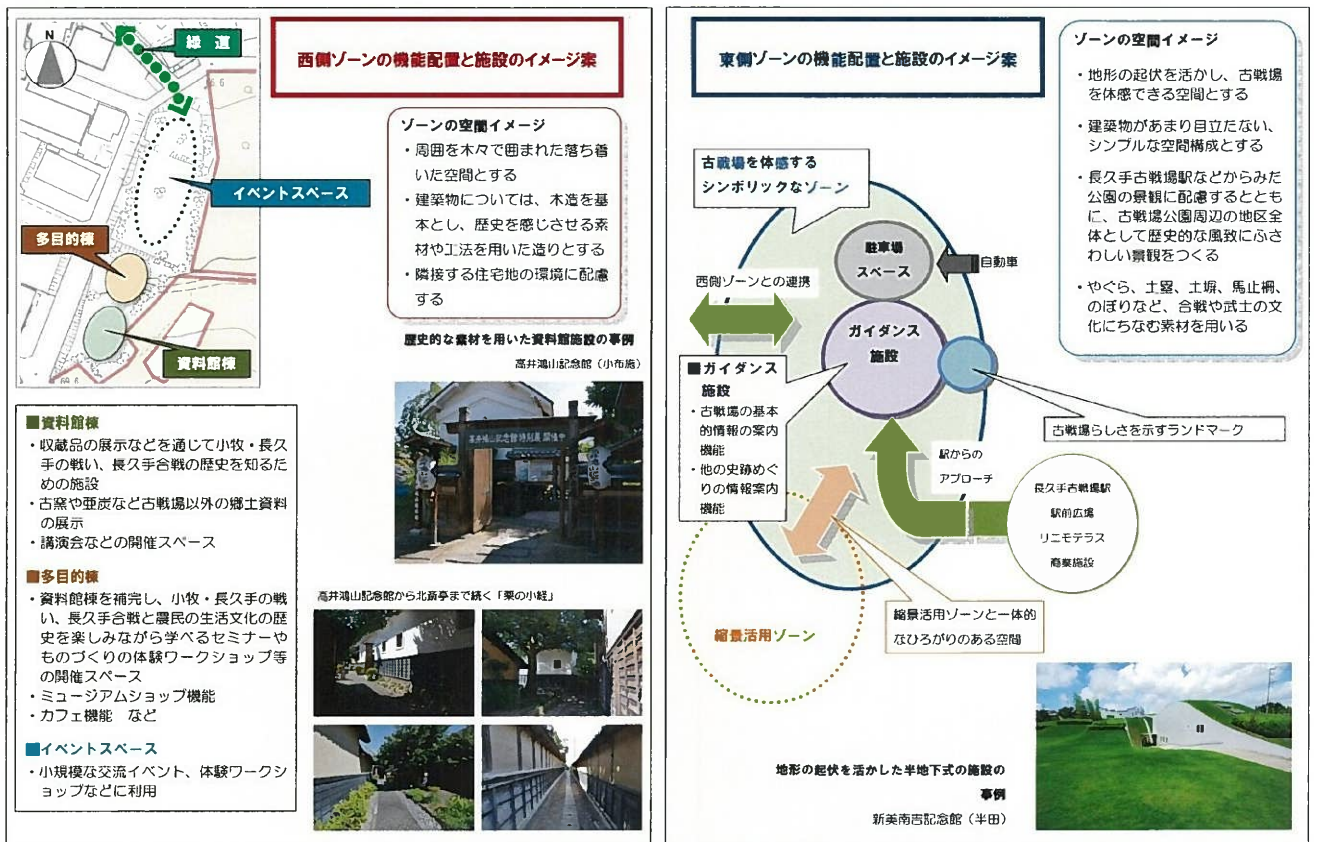
「エコミュージアム」とも呼ばれる。歴史、文化、生活、自然など、地域の社会環境と自然環境の特色をまるごと現地で保存、養成、展示する博物館の形態であり、行政と住民が一緒に構想し、運営していくことにより、地域の歴史・文化・生活などを住民が自ら認識する場であるとともに、来訪者に地域のことを理解してもらうための場でもある。
 (文部科学省資料「エコミュージアムについて」より抜粋・編集)

3つの機能	方針	古戦場公園の再整備の方針	関連する他の地区、施設との連携の方針
1) 歴史を知る・学ぶ	<p>1. 郷土資料室のリニューアル（歴史資料の整理）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長久手合戦の歴史を知り、市内を巡ってみたいとなるような情報を伝える ・長久手合戦の一日の時間の流れに沿った情報を伝える ・古戦場の歴史をメインとし、その他郷土の歴史も伝える <p>2. 公園のリニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古戦場のイメージを伝えられる、できるだけシンボリックな空間構成とする ・長久手古戦場駅やグリーンロードなどからみた景観に配慮し、古戦場の歴史にふさわしいランドマークをつくる ・古い家屋の活用や当時の素材、工法を用いるなど、歴史に配慮した施設とする <p>3. 利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時は思わせる食や生活文化の体験ができる場をつくる ・伝統的な祭やイベントの開催の場として活用する 	<p>1. 既存施設の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長久手合戦にまつわる市内の他の史跡や、長久手の原風景を残す岩作集落などを巡る歴史散策ルートをつくる ・犬山、小牧など「小牧・長久手の戦い」に関連する諸都市と連携する ・姉妹都市ワテローとの「古戦場の歴史・生活文化」をテーマとした国際交流を図る <p>2. 歴史をキーワードにした連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民サークルや大学などとの連携により、歴史を学ぶ活動を多様に展開する ・古戦場の歴史にちなんだみやげ物をつくる ・古戦場公園の周辺地区全体として、古戦場の歴史にふさわしい景観をつくるよう連携を呼びかける（駅前広場、リニモテラス、大規模商業施設等） 	
2) 自然の中で憩う・遊ぶ	<p>1. 歴史と自然が共存した公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境に配慮し、歴史と自然のバランスがとれた公園とする <p>2. 日常でもイベント時でも楽しめる公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな世代が緑のなかでピクニックするなど、憩うことができる公園とする ・自然を愛でることができるイベント開催の場とする 	<p>1. 周辺の樹林地や公園、香流川と結ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色金山をはじめ、他の公園と結ぶ緑のネットワークをつくる ・香流川との連携や香流川の緑道づくりなどによる里山回廊めぐりのルートをつくる <p>2. 他の施設との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の公園などでの自然に親しむイベントとの連携 	
3) 交流する	<p>1. イベントによる交流の場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史、食・物等に係るイベントの開催などにより、さまざまな世代が集い楽しめる場をつくる <p>2. 施設での交流や体験の場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くど、囲炉裏を使う体験をはじめ、昔の「衣食住」に関する生活体験をするなど、お年寄りが子どもたちに伝統文化を伝えたり、楽しみながら交流できる場をつくる <p>3. 市民参加によるリピーター、サポーターづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民が公園づくりや維持・管理、歴史体験の活動などに参加することにより、古戦場公園のリピーターやサポーターを増やす <p>4. 自動車利用者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクセス路や駐車場の整備により、訪れやすい公園とする 	<p>1. イベントによる交流と情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺での他のイベントと連携する ・古戦場公園に関する情報を発信する <p>2. 周辺施設等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模商業施設の買い物客に興味を持ってもらえる機会をつくる ・駅前広場のイベントスペースと連携する ・リニモテラスを活用し、交流事業や情報発信を行う ・ござらっせ等を通じ、地域の農業や食と連携する <p>3. 公共交通の利用促進の取り組みとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニモの利用促進と古戦場公園の利用促進がタイアップしてアピールする ・Nバスを活用し、誰でも歴史散策しやすい移動手段を確保する 	

5) ゾーンごとの再整備の方針



6) 機能配置と施設整備の方針



■ 史跡長久手古戦場保存活用計画

・本計画の規範となる上位計画(別紙「史跡長久手古戦場保存活用計画」参照)